



当社研究開発の新たな飛躍を 目指して

Approaching a New Leap Forward
in Research and Development of DENSO

常務取締役 真 鍋 正 巳

Masami MANABE

人類に大きな恩恵をもたらした自動車産業は、現在「地球環境への悪影響をなくす」「交通事故を限りなくゼロに近づける」という、極めて高い目標の技術開発に挑戦している。今よりもさらに多くの世界の人々が自動車を所有し、その恩恵を享受するためには、着実にこれらの高い目標に向かって技術開発を推進しなければならない。

今回のデンソーテクニカルレビュー R & D特集号のサブタイトルは「車の未来を拓く基礎技術」である。2015年頃の自動車を考えるときの現在のキーワードは、環境、安全、情報通信である。動力としては超低排出ガス化されたディーゼルエンジン、ガソリンエンジンの他に一定量の電気モータが使われる。安全の面では、人間の注意力を補うため車に複数の周辺認識センサが取り付けられ、それらの信号でブレーキやステアリングが部分的に制御される。また、情報通信の進歩により、車々間、路車間の通信が可能となり、利便性の拡大、交通渋滞の緩和などに貢献する。以上のような予測が一般的に考えられている。我々は、少なくともこれらのことを実現するための基盤となる技術は何か、をよく議論し、吟味して研究開発に取り組みねばならない。

過去に自動車の進歩に大きな影響を与えた技術はいろいろあるが、私としては、マイクロコンピュータの登場を一番に挙げたい。GMが1978年にマイザーという名称でエンジンの点火時期制御用としてはじめてマイクロコンピュータを市販車に採用した。それ以来、1/4世紀、今やおびただしい数のマイクロコンピュータが1台の自動車に搭載され、機能、性能の向上に大きく貢献している。将来、さらにこの傾向が進むことは間違いない。前述の高い目標を達成するためにも、最先端のコンピュータ技術、ソフトウェア技術を駆使することが要求される。この分野の技術革新に常に目を向けるとともに、当社としても何らかの貢献をしたい

ものである。

技術の進歩は速い。このため技術者が常に自己啓発し、技術力を高めていくこと、アンテナを高くして先端技術の出現をいち早くキャッチし、研究開発活動に反映していくことの2点が、特に重要である。自己啓発については、会社の教育システムを刷新し、時代にふさわしいものにした。教育は、会社や上司に頼るものでなく、自己啓発が基本である。皆さんには是非、新しい教育システムを活用して自分の技術力を高めて欲しい。また、上司の方々は、職場を自己啓発したくなる雰囲気に変えるべく努力していただきたい。アンテナを高くすることについては、先端技術の収集機能を強化する施策を推進している。研究開発テーマの選定や研究開発における他社とのアライアンス等に大いに役立つものと期待している。

本年12月17日は、1903年ライト兄弟が世界で初めて動力飛行した時から、ちょうど100年が経過する記念すべき日である。米国では、この日に合わせてライト機フライヤー号を復元し、飛行する計画が進んでいる。ライト兄弟は、鳥のように自由に空を飛ぶたいという人類の夢に向かって、たゆまぬ努力をした結果、夢を実現し、人類にはかり知れない恩恵をもたらした。我々も改めてそれぞれの夢の実現に向けて、信念を持って研究開発の努力を続けたいと思う。